

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 28 日

所属	政策情報学部	職名	教授	氏 名	朽木 量
研究課題	ヒストリカルブランディング概念を利用した地域文化資産の活用法の研究				
研究キーワード	ヒストリカルブランディング、地域探索、街おこし、市民参加	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	11. 住み続けられるまちづくりを	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	該当なし		該当なし

1. 研究成果の概要

朽木の専門である民俗学は、高度成長期以降の生活革命を経て、いわゆる「民俗の縮小」に直面している。その過程で、民俗学は現代民俗・都市民俗にも対象を広げると共に、聞き取り調査に立脚した地域研究またはヴァナキュラー・スタディーズに変容しつつある（島村恭則 2020 など）。本研究では、民俗学のこうした最新の動向を踏まえつつ、朽木がこれまで蓄積してきた地域研究・フィールドワークの手法・着眼点を普遍化し、ヒストリカルブランディング概念を流用しつつ、一般市民や学生でも手軽に地域探求を実践するための着眼点をまとめてきた。さらに、別予算で計上している Locatone との連携を視野に入れつつ、鎌ヶ谷市佐津間地区のヒストリカルブランディングによる地域文化資産活用の方法を考えた。ヒストリカルブランディングの概念は提唱されてから日が浅く、その意味でも、民俗学に資するところが大きいといえるが、本年はその活用と街づくりへの貢献について考えた。

2. 著書・論文・学会発表等

（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【学会発表等】

研究成果として、Locatone™のプログラムを2本作製した（ゼミ生との協働）。また、その成果のアウトリーチ活動として、2025 年 3 月 13 日に野田市中央公民館にて「歴史と観光 ガイドブックに載らないここだけの話を創る」と題する講演を行った。

3. 主な経費

Locatone™で使用するパソコンの購入を行った。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

（本文は2ページ以内にまとめること）